

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日
配当金受領株主確定日	期末配当金：3月31日 中間配当金：9月30日
単元株式数	100株
定時株主総会	毎年6月
公告方法	電子公告 (https://www.fujimiinc.co.jp) ただし、事故その他やむを得ない事情によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載することといたします。
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先 及び照会先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (通話無料)

株式会社フジミインコーポレーテッド

お問い合わせ先：経営企画部経営企画課
TEL：052-503-8181 (代表)
URL：<https://www.fujimiinc.co.jp>

Copyright (C) 2021 Fujimi Incorporated. All rights reserved.

各種手続のお申出先

- 支払期間経過後の配当金のお支払いについては、株主名簿管理人にお申出ください。
- 住所変更、単元未満株式の買取、配当金受取方法の指定等
証券会社をご利用の株主様は、お取引の証券会社へお申出ください。
証券会社をご利用でない株主様は、特別口座の口座管理機関である日本証券代行株式会社へお申出ください。

【ご注意】

特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、日本証券代行が口座管理機関となっておりますので、下記特別口座の口座管理人に、お問合わせください。

特別口座管理機関 連絡先
日本証券代行株式会社
〒168-8620
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
日本証券代行株式会社 代理人部
電話 0120-707-843 (通話無料)



この印刷物は、適切に管理された森林で生産された木材を使った環境配慮型のFSC®認証紙と、植物油を使用し、VOCの排出を抑えた環境対応型リサイクルインキ「ベジタブルインキ」を使用しております。

FUJIMI TODAY vol.53

2021.4.1 ~ 2021.9.30

2021年12月発行

特集

株主様アンケート結果のご報告と ご質問への回答

技術を磨き、心をつなぐ



証券コード 5384



お客様目線の実践

パウダー&サーフェスカンパニーへの進化

「働きがい」と「働きやすさ」の醸成

当事者意識とやり抜く力の確立

革新への挑戦



技術を磨き、心をつなぐ

私たちの「磨く技術」は半導体をはじめとした
さまざまな産業で活かされています。
フジミはお客様にあらゆる製品を
磨いていただくことで、
人々が快適に暮らせる未来の創造に
貢献します。

代表取締役社長

関 敬史

株主の皆様へ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

》上期を振り返って

当社グループを取り巻く環境は、新型コロナウイルスに関してワクチン接種が進んでいる地域では経済活動の正常化に向けた動きが見られましたが、変異株による感染再拡大も懸念され、加えて資源・エネルギー価格の高騰や米中間の緊張が続き、世界経済は不透明感が一層強まりました。一方、世界半導体市場は、新型コロナウイルス感染拡大による生活様式の変化とそれに伴う情報通信の高度化に対応する最先端半導体デバイスの需要増加に加え、自動車向け等の従来型半導体デバイスの需要回復により、市況は堅調に推移しました。

こうした状況下、主に半導体基板となるシリコンウェハー向け及び半導体デバイスの製造工程で用いられるCMP向け製品の販売が増加し、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高25,291百万円（前年同期比23.8%増）、営業利益6,158百万円（前年同期比65.6%増）、経常利益6,357百万円（前年同期比72.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益4,803百万円（前年同期比68.2%増）となり、売上高・営業利益・経常利益・四半期純利益

はいずれも過去最高となりました。配当金につきましては、1株につき中間配当を期初予想の60円から25円増配の85円（前年同期比35円増）とし、年間配当は期初予想の125円から45円増配の170円（前期比55円増）とする予定です。

》新市場区分「プライム市場」を選択

当社は、2022年4月の東京証券取引所の市場再編に当たり、プライム市場を選択することと致しました。同市場のコンセプトは、「多くの機関投資家の投資対象になりうる規模の時価総額（流動性）を持ち、より高いガバナンス水準を備え、投資家との建設的な対話を中心に据えて持続的な成長と中長期的な企業価値の向上にコミットする企業向けの市場」とされており、プライム市場に参加する企業として、相応しい体制を整えてまいります。

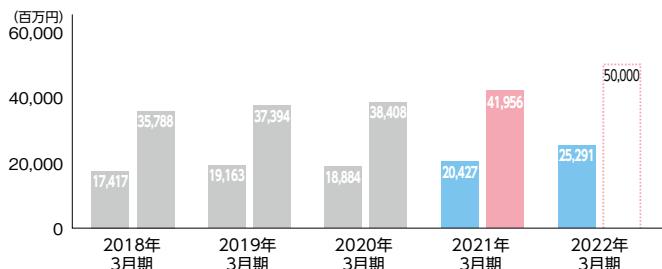
最後になりますが、これまで築き上げた強固な財務基盤を背景に、成長のための既存・新規分野及び当社コア技術の強化と新技術獲得へ向けた投資を積極的に行うと同時に、CSR活動にも力を注ぎ、持続可能な社会の実現を目指してまいります。

皆様のご厚情に感謝するとともに、これまでと変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

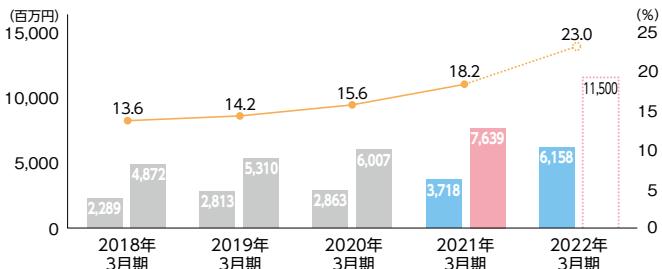
連結決算ハイライト

■ 上期 ■ 通期 ● 通期 ※2022年3月期通期予想値

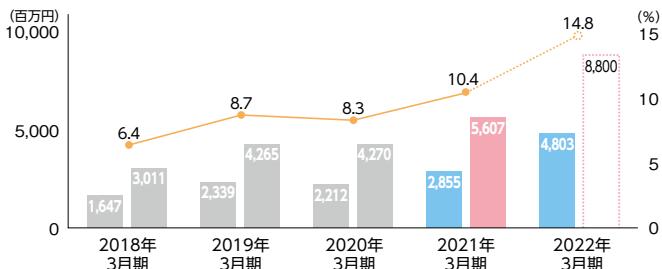
■ 売上高



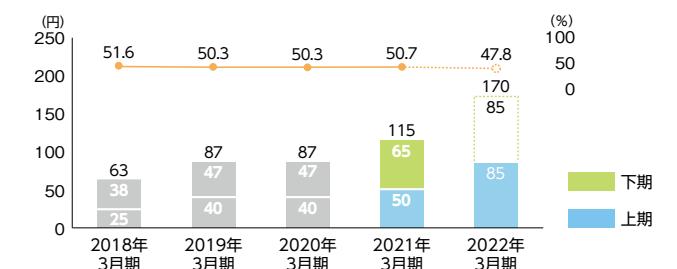
■ 営業利益・営業利益率 折れ線グラフ: 営業利益率 (右軸)



■ 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益・ROE 折れ線グラフ: ROE (右軸)



■ 配当金・連結配当性向 折れ線グラフ: 連結配当性向 (右軸)



特集 株主様 アンケート結果の ご報告とご質問への回答

毎号、株主通信のアンケートには、多くの株主様からたくさんのお声を頂戴しております。ご回答いただきました株主の皆様におかれましては、お忙しい中ご協力いただきまして、誠にありがとうございます。

今号では、株主様にアンケート結果のご報告をするとともに株主様からのご質問にお答えいたします。

※過去の株主通信は当社ホームページ及び二次元コードよりご覧いただけます。
<https://www.fujimiinc.co.jp/ir/library/report.html>

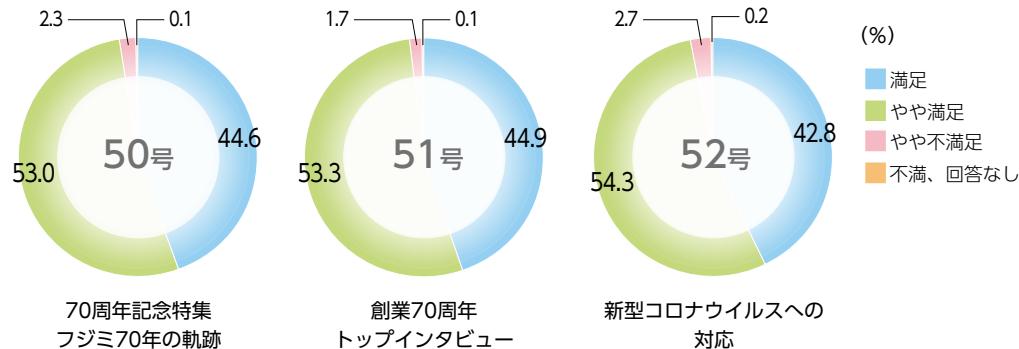


	50号	51号	52号
調査対象	3,827	3,779	5,102
回答数	1,461	1,468	1,984
回答率	38.2%	38.8%	38.9%

調査方法：ハガキによる調査

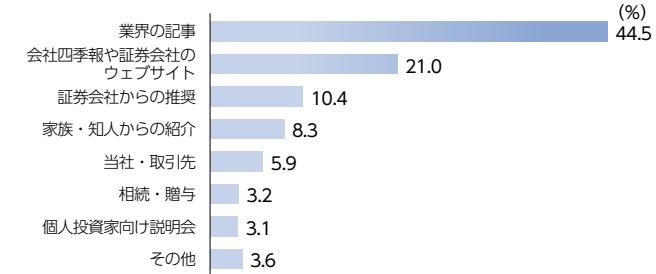
アンケート結果

株主通信のご評価



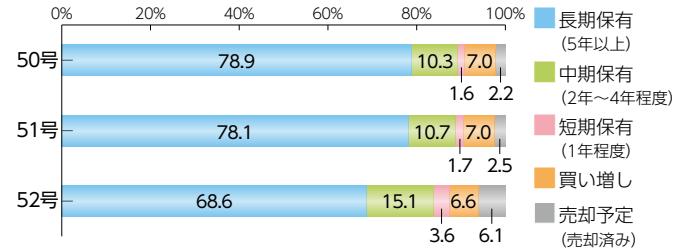
過去3号いずれも「満足」、「やや満足」の合計が9割以上とご評価いただきました。引き続き株主様にご満足いただける冊子づくりに努めてまいります。

当社を知るきっかけとなったものは何ですか? (52号より)



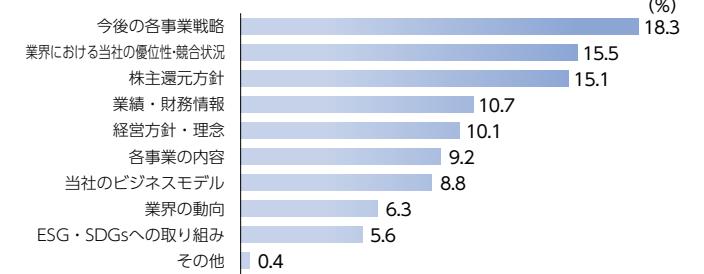
「業界の記事」がきっかけという人が44.5%を占めております。マスメディアに取り上げていただく機会を増やしてまいります。

当社株式の今後の保有方針



長期保有を方針とする人の割合は減少傾向であるものの、依然として大半を占めております。

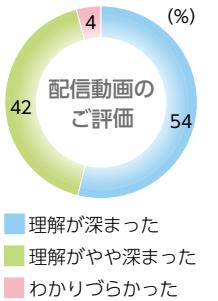
当社について、もっと知りたい情報は何かですか? (%)



「今後の各事業戦略」、「業界における当社の優位性・競合状況」、「株主還元方針」について高い関心をいただいております。

株主総会の事後配信動画のご評価

2021年6月24日に開催しました第69期定時株主総会は新型コロナウイルス感染拡大の懸念から、株主総会当日のご来場の自粛をお願いしておりました。そのため、当日の総会の様子をインターネットにて一般公開することにしました。



「理解が深まった」、「理解がやや深まった」が合計の9割以上と多くの方に肯定的なご評価を頂きました。

こちらからご覧いただけます。(視聴期限：2021年12月31日)
<https://net-presentations.com/5384/20210624sr/>



information

当社は、株主様のご意見・ご意思を伺う機会として株主総会における議決権行使と株主様のアンケート回答を大切にしております。

株主総会における議決権は、株主様にとって当社の経営にご参加いただき、議案への賛成・反対の意思表示ができる権利であると同時に、当社にとっては、株主様の意思表示を伺うことができる大切な機会になります。議決権を行使していただいた株主様にはお礼としてQUOカードをお送りしております。

また、株主様との双方向のコミュニケーションをとることを目的に、株主通信(年に2回)に同梱してアンケートハガキをお送りし

ております。受付期間内にアンケートにご回答いただけますと、お礼にノベルティをお送りしております。

※1単元(100株)以上の株主様を対象に実施しております。



- ノベルティ紹介 (過去5号)
- レザライクケース (52号)
 - 除菌用アルコールスプレー (51号)
 - ヒノキコースター (50号)
 - カラビナライト (49号)
 - フリクションボールペン (48号)

議決権行使への御礼。※画像はイメージです。実物と異なる場合がございます。

次ページよりご質問への回答

■ 先端技術研究所の設立目的を教えてください。

先端技術研究所の設立には、以下2つの目的があります。

① 中長期的視野での研究開発、新規事業機会の探索・創出

世界の動向・潮目を早い段階で捉え、魅力ある技術や将来性、当社との適合性などの観点から、有望な事業機会の探索・選定を行っております。

② 事業・機能本部間の保有技術の横串機能強化

当社全体を俯瞰し、当研究所が技術において事業・機能本部との横串機能を強化することで、当社技術の強みを体系化し、グループ全社に発信・共有化に取り組んでおります。

■ 開所して6年経過しますが、具体的な成果を教えてください。

先端技術研究所では2015年4月に設立以来、既存事業を支える基盤技術の深耕・強化に取り組んでおります。競合企業との差別化を図るため半導体用次世代製品向けに研磨スラリーの材料に用いる添加剤・砥粒の高精度ろ過技術や新たな砥粒開発を行い、お客様へのサンプル対応から採用に至るまで貢献しております。一方で、先端分野の開発にあたり評価技術も重要となるため、新たな分析機器の評価や導入も積極的に行っております。

また、オープン・イノベーションを取り入れ、5年から10年先を見据えた将来テーマを探索するため当社技術の紹介に重きを置いて、国内外で開催される技術展示会*に出席し、将来テーマを探索するとともに新規アイデアや独自テーマを数多く案出し、調査や基礎研究を重ねております。今回は、その中から2つをご紹介します。

1つはリン酸チタン粒子の開発です。開発した粒子は高白

色・板状な上、粒子径と厚みが揃っていることが特長で、機能性を備えた粒子としてさまざまな用途への展開を考えております。現在は、化粧品用途・工業用途を中心にサンプルを提供し、その評価を確認しております。



リン酸チタン粒子

化粧品イメージ

もう1つは航空機エンジン用に、セラミックス複合材料(以下、CMC*)の開発を長期的テーマとして取り組んでおります。航空機エンジンは航続距離を長くすることを目標に、

航空機エンジンの軽量化・省エネルギー化・低コスト化が望まれております。当社が取り組んでいるCMCには既に当社製品のラインアップにもある炭化ケイ素を主材料としており、耐熱性に優れ、金属よりも軽いことからこれらのニーズに対応できると考えております。

ご紹介した2つを含めさまざまな調査や研究活動により、パウダー開発に加え、シート化・複合化などの加工技術も習得しており、先端技術研究所の設立以降、約40件の特許を出願するなど、新規事業の探索と創出へ寄与する技術力の向上や新たな技術を着実に獲得しております。

さらに、5年、10年先の事業に必要な技術を保有するベンチャー企業やシナジー効果が見込める企業を探索しており、

2015年11月に設立したCVC（コーポレートベンチャーキャピタル）を通じてこれまでに6社に投資を実行しました。投資先の企業とともにインキュベーション*を含めたさまざまな取り組みを行っております。その中でも酸化ガリウムを用いた次世代パワーデバイスを開発している株式会社FLOSFIA*は大きな注目を集めております。



CMC中間製品



航空機エンジンイメージ図

■ 今後(将来)に向けての取り組み

今後につきましては、当社のコア技術の一つであるパウダー技術を軸に、さらなる価値をお客様へ提供すべく、「パウダー+α」にチャレンジしてまいります。この「パウダー+α」とは、お客様に新しいパウダーを提供するだけでなく、その先にある下流プロセス技術をも取り込み、ビジネスの高付加価値化を狙うものです。具体的な取り組みは以下の2つです。

重点テーマの事業化

化粧品材料はもちろん、潤滑材や添加材などの材料としても可能性があるリン酸チタン、そして、航空分野における重要

な部品の材料として期待されるCMCを将来、事業の柱の一つにすべく、引き続き注力して育成に取り組んでまいります。

新規テーマの創出

当社基盤技術の開発と深耕を推進し、そこから派生される新たなテーマの創出にも取り組みます。特に、当社の技術開発がもたらすシーズを社外へ積極的に発信し、外部からの有用な新規アイデアを拾い上げ、テーマ化し、新たに有望な事業機会へと育成してまいります。併せて、ベンチャー企業などへの投資活動を含め、社外技術とのコラボレーションにも積極的に取り組んでまいります。

技術展示会

当社が参加した技術展示会は、機械要素技術展、高機能セラミックス展、CITE JAPAN、nano techやTechConnect Worldなど。

CMC

Ceramic Matrix Compositeの略。セラミックスに、繊維や粒子などを組み合わせて複合化し、強度・靱性を向上させた材料。

インキュベーション

事業の創出や創業を支援するサービス・活動。

株式会社FLOSFIA

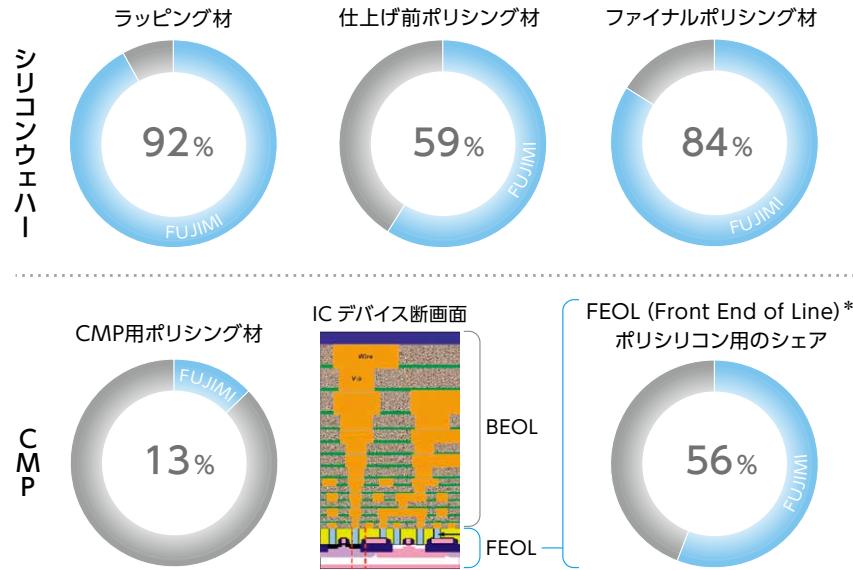
京都大学発祥のミストドライ®成膜技術専門企業。

業界におけるフジミの優位性、競合状況について

当社は1950年に日本初となる精密人造研磨材（以下、研磨材）を製造して以来、さまざまな用途に、多くの製品を提供してまいりました。中でも、半導体シリコンウェハの製造工程で使用されるラッピング材*、ファイナルポリシング材*はいずれも他を圧倒する高い世界シェアを維持しております。その背景には、1957年にトランジスタラジオに使われる半導体基板（当時の素材はゲルマニウム）の研磨に当社製品が採用されて以来、今日に至るまでお客様の高度な要望・要求に、お応えし続けてきたことによるものと認識しております。

また、半導体デバイスの製造工程で使用されるCMP（化学的機械研磨）用製品では、現在の世界シェアは約13%と2位グループの1社ですが、半導体の性能を左右するトランジスタ素子形成工程（FEOL）のポリシリコン向けに限れば、当社は世界シェアの過半を占めております。世界最大の半導体メーカーである米国インテル社から、2014年度より7年連続でサプライヤーアワードを受賞するなど、当社の製品・品質管理などに対してはお客様から高い評価をいただいております。

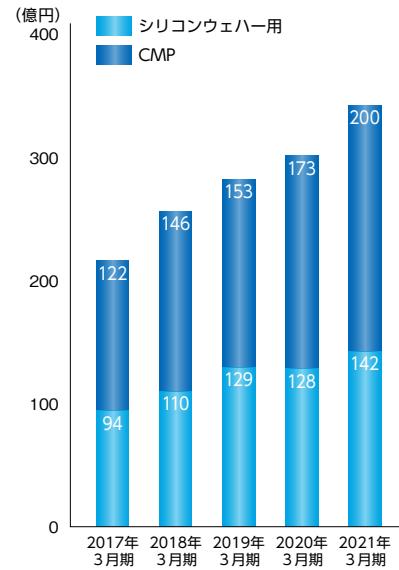
半導体シリコンウェハ・CMP用製品の世界シェア （自社推計 2021年3月期）



ラッピング材
シリコン基板等を粗磨きするための粉末研磨材。

ファイナルポリシング材
ファイナルポリシング工程で使用される鏡面仕上げ研磨スラリー（液体研磨材）。

シリコンウェハ・CMP売上高推移



FEOL
Front End of Lineの略。
（トランジスタ・キャパシタ等形成工程）

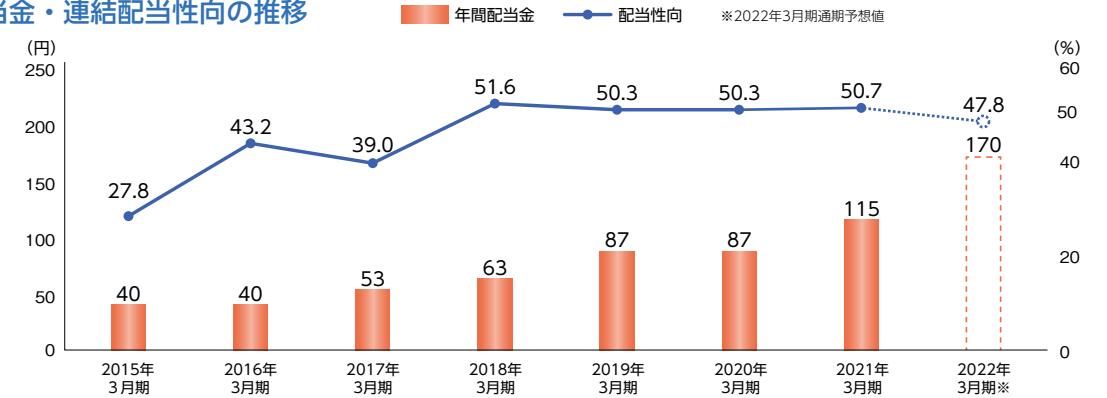
株主還元方針について

当社は、株主様に対する適正な利益還元を行うことを経営の重要課題と認識し、経営にあたっております。配当に関しては、2018年3月期以降、目標とする連結配当性向50%以上に沿った配当を継続しております。当期2022年3月期の年間配当金は期初予想の125円から45円増配の170

円（前期比55円増）とする予定であり、5期前の3倍超となっております。

一部の株主様より株主優待制度の導入を期待するお声もいただいておりますが、現在のところ利益還元は配当を中心に考えております。

年間配当金・連結配当性向の推移



その他のご質問

Q. 株主通信でわからない用語があるので教えてください

A. 当社ホームページに専門用語集のページがあります

こちらのページまたは二次元コードよりご覧いただけます。
<https://www.fujimiinc.co.jp/ir/individual/glossary.html>



Q. 半導体の業界動向を教えてください

A. 中長期的に半導体市場は伸びると予想されております

中長期的に半導体市場は伸びると予想され、当社は、半導体向け製品の供給能力増強に取り組んでおります。

Q. 石徹白の活動について教えてください

A. 活動紹介ビデオを制作しました

2021年11月より、活動紹介ビデオをホームページに掲載しましたのでぜひご覧ください。今後も活動状況を当社ホームページを通じてご紹介してまいります。



<https://www.fujimiinc.co.jp/csr/action/wateroffset.html>



用途別の動き

シリコンウェハー用

売上構成比 35.6%

半導体業界の高い稼働に支えられ、ラッピング材の売上高は2,985百万円(前年同期比38.3%増)、ポリシング材の売上高は6,007百万円(前年同期比32.9%増)となりました。

半導体基板となるシリコンウェハーを高精度に平坦化・鏡面化する研磨工程で用いられる研磨材を研究開発し製造販売する事業です。

■売上高(単位:百万円)



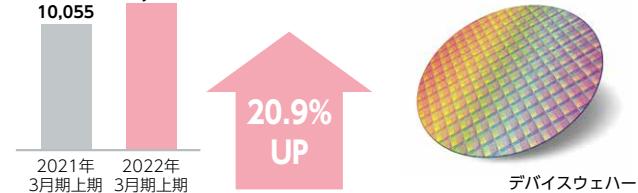
CMP用

売上構成比 48.1%

ロジック、メモリ向けともに需要は好調に推移し、売上高は12,155百万円(前年同期比20.9%増)となりました。

半導体デバイスの製造工程で用いられる研磨材を研究開発し製造販売する事業です。

■売上高(単位:百万円)



ディスク用

売上構成比 3.1%

SSD(ソリッドステート・ドライブ)への置き換え及び一部顧客の事業撤退に伴う生産終了の影響により、売上高は790百万円(前年同期比15.7%減)となりました。

デジタルデータの記録媒体であるハードディスクドライブ用ディスク基板の製造工程に用いられる研磨材を研究開発し製造販売する事業です。

■売上高(単位:百万円)



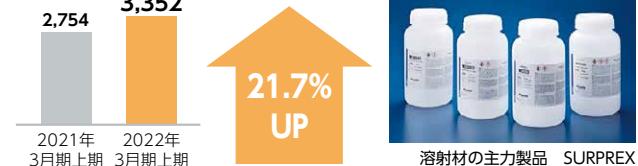
一般工業用・その他

売上構成比 13.2%

非半導体関連の一般工業用研磨材につきましては、自動車及び産業機械向け需要の回復もみられ、売上高は2,140百万円(前年同期比26.0%増)、その他につきましては、1,212百万円(前年同期比14.9%増)となりました。

多種多様な用途向けに研磨材や機能性材料を提供しております。また、半導体装置、航空機及び鉄鋼などさまざまな業界の溶射用途向けに溶射材を提供しております。

■売上高(単位:百万円)



NEWS&TOPICS

ラジオCM放送のお知らせ(CBCラジオ)

2021年11月より愛知・岐阜・三重県を放送対象地域としているCBCラジオにて当社ラジオCMが放送されています。原稿を社員が考え、3パターンでの20秒CMを収録しました。順次放送されますので是非お聴きください。

放送局: CBCラジオ (AM1053kHz / FM 93.7MHz)

放送期間: 2021年11月18日~2022年2月15日

放送時間: ・毎週月曜日~金曜日 時間帯 6:30~7:30

「多田しげおの気分爽快!! 朝からP・O・N」の番組内

・毎週土曜日・日曜日 時間帯 7:00~18:00

スポット



サイネージ広告掲載のお知らせ(岐阜県各務原市役所新庁舎)

2021年9月21日より岐阜県各務原市役所新庁舎の1階市民課、2階市民税課待合の番号案内モニターに当社広告(15秒動画)が流れております。各務原市役所へお立ち寄りの際は、ぜひご覧ください。

掲載期間: 2021年9月21日~2022年9月20日



連結財務諸表

連結損益計算書

	前第2 四半期 連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2 四半期 連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
売上高	20,427	25,291
売上原価	10,985	12,959
売上総利益	9,441	12,332
販売費及び一般管理費	5,722	6,173
営業利益	3,718	6,158
営業外収益		
受取利息	42	27
受取配当金	14	15
固定資産売却益	1	81
その他	42	82
営業外収益合計	101	207
営業外費用		
為替差損	107	—
その他	17	9
営業外費用合計	125	9
経常利益	3,694	6,357
税金等調整前四半期純利益	3,694	6,357
法人税、住民税及び事業税	1,000	1,686
法人税等調整額	△160	△133
四半期純利益	2,855	4,803
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,855	4,803

(単位：百万円)

売上高

SSDへの置き換え及び一部顧客の事業撤退に伴う生産終了の影響でハードディスク向け製品の販売は減少したものの、新型コロナウイルス感染拡大による生活様式の変化とそれに伴う情報通信の高度化に対応する最先端半導体デバイスの需要増加等によりシリコンウェハー向け及びCMP向け製品の販売が好調に推移し、売上高は前年同期比23.8%増の25,291百万円となりました。

営業利益

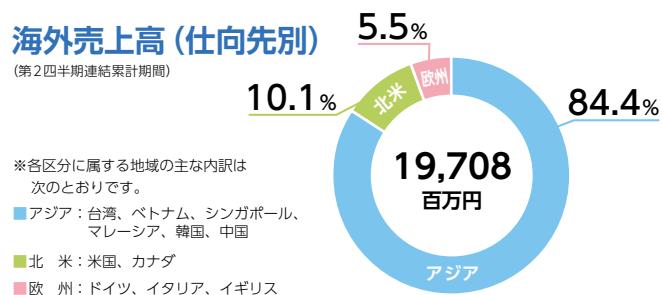
前年同期比65.6%増の6,158百万円となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益

前年同期比68.2%増の4,803百万円となりました。

海外売上高 (仕向先別)

(第2四半期連結累計期間)



海外売上高

	前第2 四半期 連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2 四半期 連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
海外売上高	15,706	19,708
連結売上高	20,427	25,291
連結売上高に占める割合	76.9%	77.9%

(単位：百万円)

連結貸借対照表

	前 連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2 四半期 連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	29,424	30,066
受取手形及び売掛金	9,098	10,549
有価証券	1,900	4,300
たな卸資産	7,326	7,929
その他	231	374
貸倒引当金	△ 13	△ 13
流動資産合計	47,967	53,207
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	6,553	6,432
その他(純額)	7,022	7,247
有形固定資産合計	13,575	13,679
無形固定資産	440	399
投資その他の資産		
投資有価証券	2,562	1,941
繰延税金資産	1,117	1,192
その他	119	128
貸倒引当金	△ 9	△ 9
投資その他の資産合計	3,789	3,253
固定資産合計	17,806	17,332
資産合計	65,773	70,539

	前 連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2 四半期 連結会計期間 (2021年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,880	3,481
未払法人税等	1,274	1,649
賞与引当金	1,438	1,555
株式給付引当金	—	474
その他	2,714	2,611
流動負債合計	8,309	9,771
固定負債		
退職給付に係る負債	901	898
株式給付引当金	329	25
その他	144	224
固定負債合計	1,375	1,148
負債合計	9,684	10,919
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,753	4,753
資本剰余金	5,570	5,570
利益剰余金	50,303	53,480
自己株式	△ 5,448	△ 5,445
株主資本合計	55,179	58,358
その他の包括利益累計額	908	1,260
純資産合計	56,088	59,619
負債純資産合計	65,773	70,539

(単位：百万円)

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、前年同期に比べて242百万円減少し、4,530百万円の収入となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益が増加したものの、売上債権が増加したこと及び法人税等の支払額が増加したこと等によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果得られた資金は、103百万円となりました（前年同期は3,395百万円の支出）。これは主に、定期預金の預入による支出が減少したこと等によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果支出した資金は、前年同期に比べて457百万円増加し、1,660百万円となりました。これは主に、配当金の支払額が増加したこと等によるものであります。

利益配分に関する基本方針及び当期の配当

当社は、株主に対する適正な利益還元を行うことを経営の重要課題と認識し、配当につきましても連結配当性向を50%以上とすることを目標として、業績に応じた積極的な株主還元を実施するとともに安定配当の継続にも留意することを基本方針としております。このような方針のもと、1株につき中間配当を期初予想の60円から25円増配の85円（前年同期比35円増）とし、年間配当は期初予想の125円から45円増配の170円（前期比55円増）とする予定です。

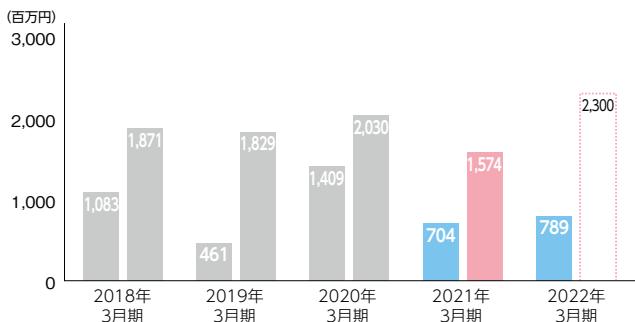
連結キャッシュ・フロー計算書

	前第2 四半期 連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2 四半期 連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
●営業活動によるキャッシュ・フロー	4,773	4,530
●投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,395	103
●財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,202	△1,660
現金及び現金同等物に係る換算差額	△31	91
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	145	3,066
現金及び現金同等物の期首残高	22,919	29,418
現金及び現金同等物の四半期末残高	23,064	32,484

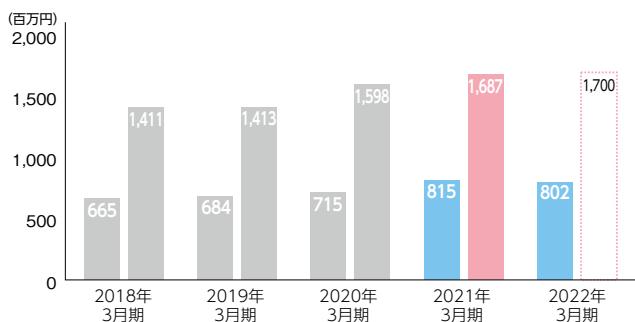
(単位：百万円)

■ 上期 ■ 通期 ※2022年3月期通期予想値

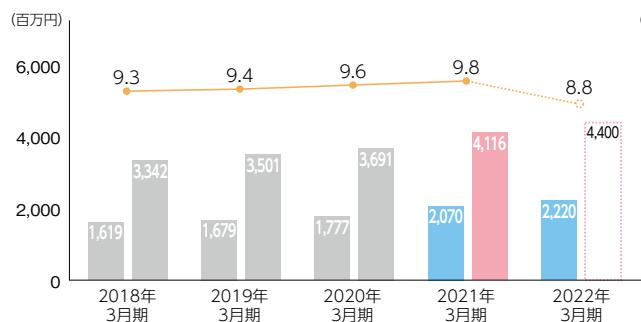
設備投資



減価償却費



研究開発費・売上高比



株式情報

2021年9月30日現在

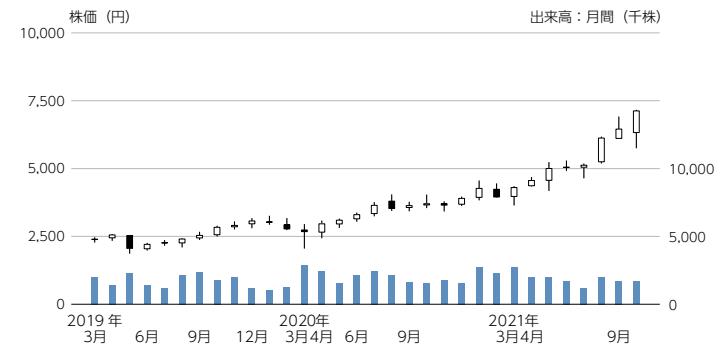
株式の状況

株式数	発行可能株式数	120,000千株
	発行済株式総数	28,699千株
	株主数	6,595名

大株主(株主名)	持株数 (千株)*1	①持株比率 (%)*2	②持株比率 (%)*3
有限会社コマ	3,743	14.9	13.0
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	2,790	11.1	9.7
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,178	4.7	4.1
株式会社かんぽ生命保険	935	3.7	3.2
GOLDMAN SACHS & CO.REG	780	3.1	2.7
株式会社三菱UFJ銀行	728	2.9	2.5
越山 勇	717	2.8	2.4
フジミ取引先持株会	694	2.7	2.4
日本生命保険相互会社	639	2.5	2.2
一般財団法人越山科学技術振興財団	600	2.3	2.0

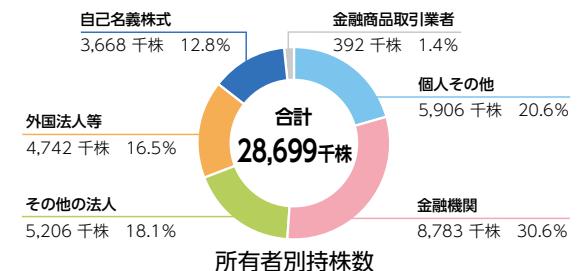
*1 持株数は千株未満を切り捨て、持株比率は小数点第2以下を切り捨てております。
*2 ①持株比率は、自己株式(3,668,100株)を控除して計算しております。
*3 ②持株比率は、自己株式(3,668,100株)を含めて計算しております。

株価及び出来高の推移



株主分布状況

2021年9月30日現在



役員

2021年
9月30日現在

代表取締役社長	関 敬史
常務取締役	大脇 寿樹
常務取締役	鈴木 勝弘
取締役	川下 政美*
取締役	浅井 侯序*
常勤監査役	藤川 佳明
監査役	高橋 正彦**
監査役	岡野 勝**

*印は社外取締役 **印は社外監査役

会社データ

2021年9月30日現在

商号	株式会社フジミインコーポレーテッド
証券コード	5384
本社所在地	愛知県清須市西枇杷島町地領2-1-1 TEL. 052-503-8181 (代表)
設立年月日	1953年(昭和28年)3月20日
資本金	4,753百万円
代表者	代表取締役社長 関 敬史
従業員	961名(単体681名)